

埋文センターが発掘調査した栃木の遺跡

いちのづかいせき

市ノ塚遺跡

—真岡市高田地内—

市ノ塚遺跡は、真岡市の市街地から南東 6 km、小貝川右岸の段丘上に立地しています。西側の台地上には国指定史跡の^{たかださんせんじゅじ}高田山専修寺があります。発掘調査は、平成 13 年 5 月から 16 年 9 月にかけて水田の基盤整備事業に先立って行われました。

その結果、縄文時代早期と古墳時代～平安時代の集落跡、室町時代の墓地跡などが見つかりました。古墳時代の^{たてあなじゅうきよあと}竪穴住居跡は 270 軒ほど発見されており、このうち 89 軒が前期に該当することから、この時期の県内屈指の大集落であることが明らかとなりました。これらの住居跡からは、^{つぼ}壺・^{かめ}甕・^{たかつき}高坏・^{きだい}器台などたくさんの土器のほか、^{やじり}鏃や^{かま}鎌などの鉄製品・青銅鏡の破片・^{といし}砥石や^{くだたま}管玉なども出土しました。

また、溝で 40m 四方に区画された室町時代の墓地には、^{はかあな}墓穴をはじめ^{ほったてばしらたてものあと}掘立柱建物跡・方形竪穴や井戸などが集中しており、当時使われていた^{とうじき}陶磁器や古銭・^{くし}鏡・^{すずり}櫛・^{いしうす}硯・^{せきとう}石臼のほか、石塔などが出土しています。



県内最古のネックレスの工房跡

市ノ塚遺跡では、古墳時代前期（4世紀）まで遡る県内最古の管玉くだたまの工房跡こうぼうあとと考えられる竪穴住居跡が4軒発見されました。

工房跡では、群馬県南部の三婆川さんぱがわ付近で採れる緑色凝灰岩りょくしょくぎょうかいがんを入手し、荒割りから整形・研磨・穿孔・完成品までの管玉くだたまの製作工程を理解することができます。また、管玉以外では扁平な半月形に形を整え、腹部えぐに抉りを施した瑪瑙製めのうの勾玉まがたまの未製品1点が出土しています。研磨に用いられた砥石といしも、未製品や破損品などとともに各住居で作業用のピットなどから出土しており、据え置かれた状態のものもありました。

管玉や勾玉は、孔あなに紐ひもを通して首飾り（ネックレス）としたものです。古墳などから出土する例が多く、権威けんいを示すものとして地域の首長や有力者が付けていました。古墳時代初めの市ノ塚遺跡ではこの時期の住居が多く、これらから東海地方や畿内きないの土器がたくさん認められるとともに、鉄製の鎌かまや鍬やじり、青銅製の鏡の破片なども出土しています。このことから、小貝川流域の水田開発のための中核的な集落であったと思われます。